



写真：東大阪再開発株式会社提供

ヴエル・ノール布施 開業30周年

布施駅前とともに歩んだまちづくり

布施駅前のランドマークとして親しまれてきた複合施設「ヴエル・ノール布施」が、今年で開業30周年を迎える。日常の風景として定着しているが、この節目に布施駅周辺が歩んできたまちづくりの歴史を振り返る。

布施駅周辺地区は、古くから大阪と奈良を結ぶ交通の要衝として栄えてきた。一方で、道路をはじめとする都市基盤整備の遅れや、周辺都市における大型商業施設の開発などにより、中心市街地としての活力低下が課題となっていた。こうした背景のもと、近鉄奈良線と近鉄大阪線が分岐するターミナル拠点としての特性を生かしながら、駅前のあり方を見直す動きが進められてきた。こうした動きを受け、布施駅北口では都市再開発法に基づく市街地再開発事業が進められ、土地利用の高度化や都市環境の改善、公共施設と一体となつた整備が行われた。その取り組みの結果として、1996年に誕生したのがヴエル・ノール布施である。



▲再開発前の布施駅北口地区

施設は、駅前に新たにぎわいをもたらしてきた。開業から30年が経過した現在では、入居テナントの顔ぶれも変わり、行き交う人々の世代や利用の仕方も多様化している。施設は時代の変化とともに、その表情を少しずつ変えてきた。

再開発当初に掲げられた「活気と潤いのある街づくり」という思いは、時代を越えて今も息づいている。ヴエル・ノール布施は、布施駅前の風景の一部としてこれからも地域とともに歩んでいく。